

# 砂防だより



新茶の頃（富士市大淵）

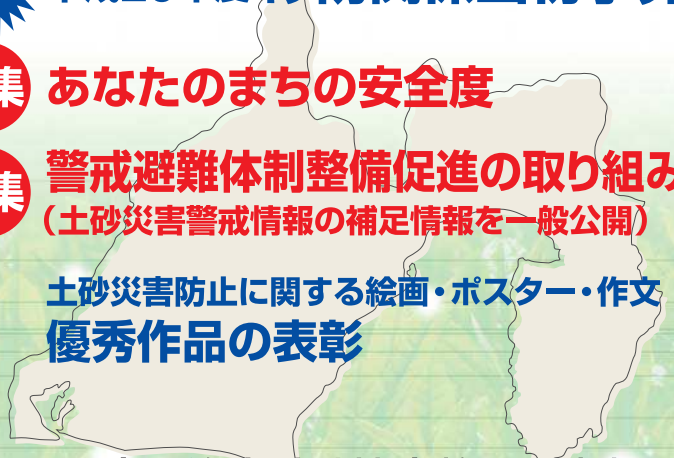
新年度のご挨拶 砂防室職員の紹介	2
土砂災害防止月間 平成20年度の行事予定	3
平成20年度砂防関係当初予算	4
あなたのまちの安全度	6
警戒避難体制整備促進の取り組み	8
土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文 優秀作品の表彰	10
インフォメーション	13
砂防室への転入者 土木事務所企画担当者の紹介	16

## 速報 平成20年度 砂防関係当初予算

### 特集 あなたのまちの安全度

### 特集 警戒避難体制整備促進の取り組み (土砂災害警戒情報の補足情報を一般公開)

### 土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文 優秀作品の表彰



# 土砂災害防止月間 がけ崩れ防災週間

6月1日 ▶ 30日

6月1日 ▶ 7日

土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害は、主に雨などが原因となって発生します。梅雨時は、雨が多く土砂災害が発生しやすい時期です。近年は異常な集中豪雨による被害が増えていますので、雨が降り出したら気象情報などに注意しましょう。

毎年6月を土砂災害防止月間として、土砂災害防止について県民の皆様に理解し関心を深めていただくため、国、県、市町などの関係機関が連携し、防災パトロール、啓発チラシの配布、講習会などを実施します。



2007砂防フェスティバル



急傾斜地パトロール

行事予定	6月 1日	土砂災害に対する全国統一防災訓練
	4～ 5日	土砂災害防止推進の集い（長野県松本市）
	1～15日	急傾斜地パトロール（県内）
	1～9/15	土砂災害防止に関する作品募集
	中旬	砂防フェスティバルしずおか （静岡市青葉シンボルロード）

土砂災害防止PRのため、会員の皆様に  
 ●懸垂幕または横断幕  
 ●マグネットシート（車貼付け用）  
 ●ティッシュボックス  
 を送付します。どうぞご活用ください。

土砂災害関連情報については、  
**静岡県砂防室ホームページ**  
 をご覧ください。

<http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>

## ▶▶平成20年度の行事予定◀◀

月 日	時刻	活 動	会場等
4月 24日(木)	11:00	全国治水砂防協会静岡県支部会計監査	静岡市内
5月 21日(水)	11:00	(社)全国治水砂防協会平成20年度通常総会	砂防会館（東京都）
29日(木)	13:30	全国治水砂防協会静岡県支部役員会	静岡市内
29日(木)	15:00	全国治水砂防協会静岡県支部平成20年度通常総会	静岡市内
6月 1日(日)		土砂災害に対する全国統一防災訓練	静岡市ほか28市町
1～30日		土砂災害防止月間	静岡県内各地
1～ 7日		がけ崩れ防災週間	静岡県内各地
6月 中旬(日)		砂防フェスティバルしずおか	静岡市（青葉シンボルロード）
8月 中旬		国土交通省、静岡県選出国会議員への要望	議員会館等（東京都）
下旬		市町長等砂防事業県外視察	未定
10月 7日(木)	10:30	砂防担当者のための土砂災害防止の実務講習会	砂防会館（東京都）
中旬		市町等砂防担当職員研修	未定
11月 中旬		東海4県協会支部長・砂防課長合同会議	三重県（予定）
中旬		東海地区直轄事務所長・砂防課長会議	静岡県（予定）
27日(木)	11:00	全国治水砂防促進大会	砂防会館（東京都）
27日(木)	13:00	静岡県選出国会議員への要望	議員会館等（東京都）
3月 中旬		砂防および地すべり防止講習会	砂防会館（東京都）

※ 太字の行事について、会員の積極的なご参加をお願い申し上げます。

速報

平成20年度

当初予算

砂防関係  
予算

94億9,403万円余

平成20年度当初予算が平成20年2月県議会定例会において可決され、静岡県一般会計の歳出総額は1兆1,298億円で、前年度に比べ97億円の減、対前年度比99.1%でした。

砂防関係事業の予算総額は94億9,403万円余で、前年度より約1億9,111万円の減、対前年度比98.0%となりました。主な内訳は次のとおりです。

1 国庫補助事業

67億3,000万円 (前年度当初比97.1%)

国の補助を得て、溪流、急傾斜地等に砂防施設等の整備を行うとともに、「土砂災害防止法」に基づく区域指定のための基礎調査等を実施します。

2 県単独事業

16億5,000万円 (前年度当初比100.6%)

国庫補助事業に採択されない箇所について、砂防、地すべり、急傾斜地崩壊防止工事を行うとともに、東海地震に備えて緊急輸送路関連土砂災害対策事業等を実施します。

3 国直轄事業費負担金

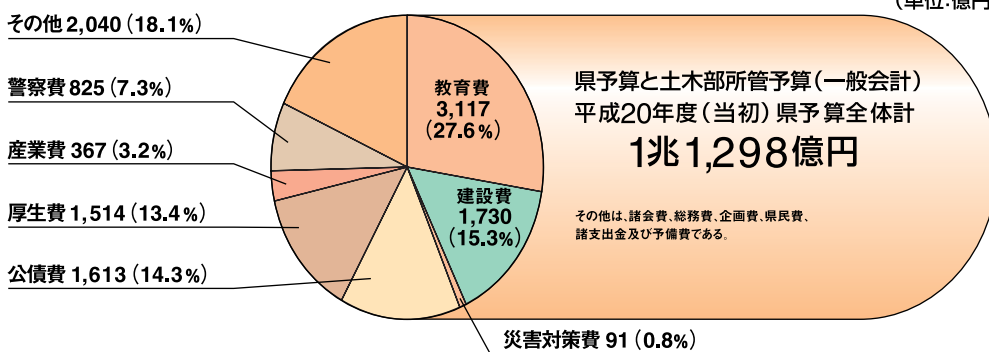
11億1,100万円 (前年度当初比100.0%)

富士山、安倍川、狩野川において、国土交通省が行う直轄砂防事業及び、由比地区直轄地すべり対策事業に対する県負担金です。

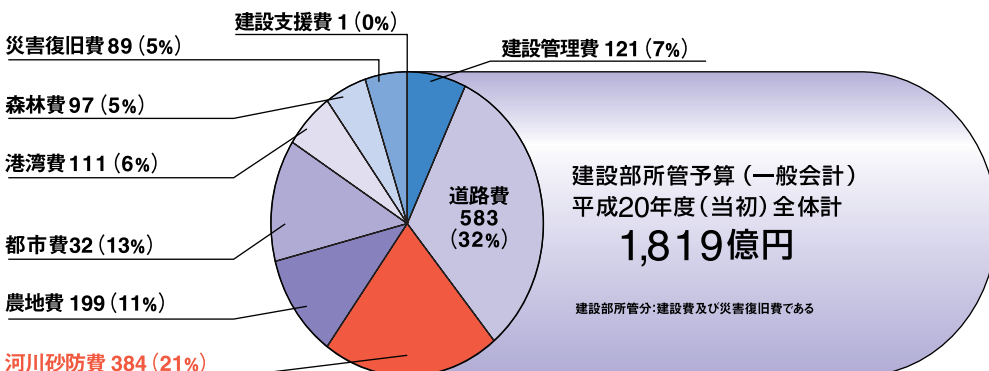
静岡県の砂防関係予算

(単位:億円)

● 県予算と建設部予算 (平成20年度当初)



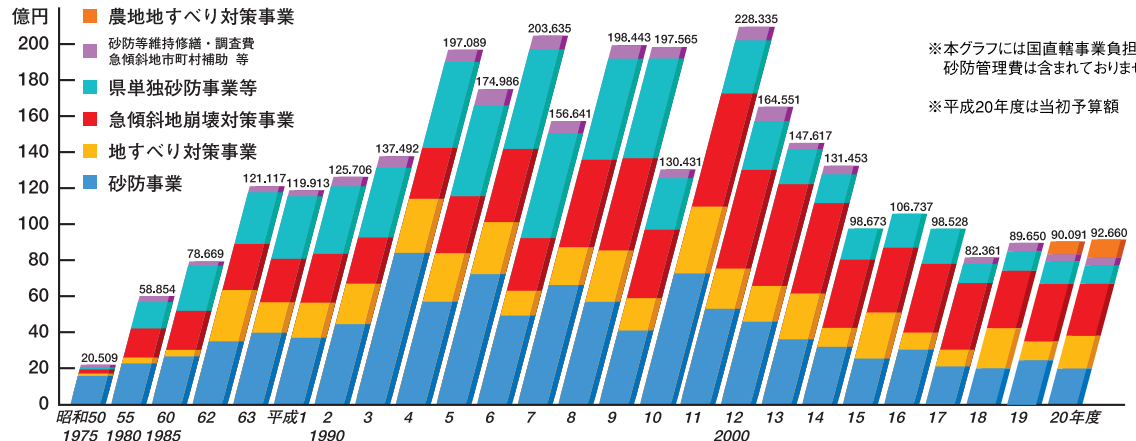
● 建設部所管予算 (平成20年度当初)



●平成20年度 砂防関係事業等予算額調書

事業名	平成20年度		平成19年度		A/B	A/C	
	当初	A	当初	最終 C			
砂防管理費(第1目)計	3,033		3,140	3,140	96.6	96.6	
国庫補助事業	砂	通常砂防	573,000	585,000	627,000	97.9	91.4
		通常砂防(河川等関連)	150,000	25,000	175,000	600.0	85.7
		通常砂防(住宅特治)	45,000	110,000	110,000	40.9	40.9
		特定緊急砂防	0	20,000	20,000	皆減	皆減
		通常砂防事業計	768,000	740,000	932,000	103.8	82.4
	火山	火山砂防	516,000	459,000	524,000	112.4	98.5
		火山砂防(河川等関連)	95,000	85,000	120,000	111.8	79.2
		特定緊急砂防	106,000	140,000	140,000	75.7	75.7
	火山砂防事業計	717,000	684,000	784,000	104.8	91.5	
	総合流域	通常砂防(総流防)	0	40,000	0	皆減	皆減
		情報基盤緊急整備(砂防)	8,000	3,000	12,000	266.7	66.7
		相互通報システム(砂防)	3,000	2,000	7,000	150.0	42.9
		砂防基礎調査(砂防)	216,000	309,000	273,000	69.9	79.1
		総合流域防災事業計	227,000	354,000	292,000	64.1	77.7
	砂防補助事業計	1,712,000	1,778,000	2,008,000	96.3	85.3	
地すべり	地すべり対策	226,000	336,000	313,000	67.3	72.2	
	地すべり対策(河川等関連)	60,000	84,000	117,000	71.4	51.3	
	地すべり対策(住宅特治)	30,000	40,000	40,000	75.0	75.0	
	特定緊急地すべり対策	134,000	50,000	50,000	268.0	268.0	
	地すべり対策事業計	450,000	510,000	520,000	88.2	86.5	
総合流域	情報基盤緊急整備(地すべり)	1,000	1,000	1,000	100.0	100.0	
	相互通報システム(地すべり)	1,000	1,000	1,000	100.0	100.0	
	砂防基礎調査(地すべり)	0	3,000	3,000	0.0	0.0	
	総合流域防災事業計	2,000	5,000	5,000	40.0	40.0	
	砂防補助事業計	452,000	515,000	525,000	87.8	86.1	
急傾斜	急傾斜地崩壊対策	2,080,000	2,106,000	2,429,500	98.8	85.6	
	急傾斜地崩壊対策(河川等関連)	120,000	73,000	180,000	164.4	66.7	
	急傾斜地崩壊対策(住宅特治)	80,000	80,000	80,000	100.0	100.0	
	急傾斜地崩壊対策事業計	2,280,000	2,259,000	2,689,500	100.9	84.8	
	急傾斜地崩壊対策(総流防)	72,000	165,000	42,500	43.6	169.4	
総合流域	情報基盤緊急整備(急傾斜)	23,000	6,000	2,000	383.3	1150.0	
	相互通報システム(急傾斜)	6,000	9,000	25,000	66.7	24.0	
	急傾斜地基礎調査	375,000	390,000	408,000	96.2	91.9	
	総合流域防災事業計	476,000	570,000	477,500	83.5	99.7	
	急傾斜地崩壊対策補助事業計	2,756,000	2,829,000	3,167,000	97.4	87.0	
砂防関係通常国庫補助事業計	4,920,000	5,122,000	5,700,000	96.1	86.3		
東富士演習場周辺地区障害防止対策事業	101,000	100,000	99,999	101.0	101.0		
災害関連	災害関連緊急砂防	189,000	189,000	354,240	100.0	53.4	
	災害関連緊急地すべり対策	1,350,000	1,350,000	509,760	100.0	264.8	
	災害関連緊急急傾斜地崩壊対策	170,000	170,000	0	100.0	皆増	
	災害関連緊急事業計	1,709,000	1,709,000	864,000	100.0	197.8	
再集計	砂防	1,775,000	1,753,000	2,170,239	101.3	81.8	
	地すべり対策	1,800,000	1,860,000	1,029,760	96.8	174.8	
	急傾斜地崩壊対策	2,522,000	2,594,000	2,732,000	97.2	92.3	
	総合土砂災害対策(ソフト)	633,000	724,000	732,000	87.4	86.5	
国庫補助事業計	6,730,000	6,931,000	6,663,999	97.1	101.0		
県単独事業	生活環境整備	通常砂防	486,000	488,000	488,000	99.6	99.6
		地すべり対策	56,000	46,800	46,800	119.7	119.7
		急傾斜地崩壊対策	609,000	612,000	612,000	99.5	99.5
		災害緊急整備(地すべり)	40,000	50,000	50,000	80.0	80.0
		緊急輸送路関連土砂災害対策(地すべり)	20,000	20,000	20,000	100.0	100.0
		緊急輸送路関連土砂災害対策(急傾斜)	40,000	40,000	40,000	100.0	100.0
		砂防等維持修繕	172,800	165,500	165,500	104.4	104.4
		砂防等調査	160,000	161,500	161,500	99.1	99.1
		砂防等台帳整備	11,200	11,200	11,200	100.0	100.0
		砂防えん堤雨水貯留機能増進費	10,000			皆増	皆増
	生活環境整備事業(県事業)計	1,545,000	1,535,000	1,595,000	100.7	96.9	
	急傾斜	施設整備	33,000	30,000	31,855	110.0	103.6
		指定促進対策	12,000	15,000	13,145	80.0	91.3
		急傾斜地崩壊対策事業費補助(市町村事業)計	45,000	45,000	45,000	100.0	100.0
	再集計	砂防	486,000	488,000	488,000	99.6	99.6
地すべり対策		116,000	116,800	116,800	99.3	99.3	
急傾斜地崩壊対策		694,000	697,000	697,000	99.6	99.6	
その他(維持修繕・調査)		354,000	338,200	338,200	104.7	104.7	
県単独事業計	1,650,000	1,640,000	1,640,000	100.6	100.6		
国庫補助	農林地すべり	農地地すべり	359,000	376,950	376,940	95.2	95.2
		農地地すべり(災害関連分)	23,000	23,000		100.0	皆増
		治山地すべり	302,000	329,000	328,130	91.8	92.0
		治山地すべり(災害関連分)	65,000	65,000		100.0	皆増
		農林地すべり国庫補助事業計	749,000	793,950	705,070	94.3	106.2
	農地すべり	農地地すべり	60,000			皆増	皆増
		農地地すべり(生活環境整備事業)	77,000			皆増	皆増
		農林地すべり県単事業計	137,000			皆増	皆増
		農地地すべり	419,000	376,950	376,940	111.2	111.2
		治山地すべり	379,000	329,000	328,130	115.2	115.5
農林地すべり対策費(第5目)計	886,000	793,950	705,070	111.6	125.7		
国直轄事業費負担金(第6目)計	1,111,000	1,111,000	2,111,063	100.0	52.6		
河川砂防費(砂防室関係)(第4項)	10,380,033	10,479,090	11,123,272	99.1	93.3		

●砂防関係事業費の推移



# あなたのまちの安全度

静岡県は、山地が多く、地形が急峻で、脆い地質が全県に分布し、15,193箇所もの土砂災害危険箇所があります。

県では、土砂災害から県民の生命・身体を守るため、砂防えん堤・擁壁などの土砂災害防止施設の整備(ハード対策)とともに、住民への危険箇所の周知(ハザードマップの配布、危険箇所表示板の設置)、土砂災害警戒情報伝達機器の整備などのソフト対策を実施しています。

## 市町別土砂災害危険箇所数とソフト対策の実施状況

(平成20年3月31日 現在)

所管 土木	市町村名	土砂災害危険箇所数				土砂災害警戒区域指定状況				危険箇所マップ 作成状況 (作成年度)	危険箇所 表示板 設置数	情報機器の整備	
		土石流	地すべり	急傾斜地	計	土石流	地すべり	急傾斜地	計			機器の種別	設置年度
下田	下田市	235		311	546	50		71	121	H16	238	CATV、メール配信	H14
	東伊豆町	23	6	56	85					H16	57		
	河津町	92	5	112	209					H16	110	CATV、有線電話	H14
	南伊豆町	252	1	245	498			18	18	H16	215	メール配信	H14
	松崎町	92	1	128	221					(H8)H18	144	CTI、同報無線	H16
	西伊豆町	86	1	116	203					(H8)H18	136	CTI、電話応答装置	H19
	小計	780	14	968	1,762	50		89	139		900		
熱海	熱海市	98	1	167	266	6		39	45	H16	202	CTI、同報無線	H16
	伊東市	105	2	216	323	10		25	35	H14	169	CATV	H15
	小計	203	3	383	589	16		64	80		371		
沼津	沼津市	116		169	285	22		50	72	H15	180	同報無線	H15
	三島市	23		82	105			30	30	H15	55	CTI、同報無線	H17
	御殿場市	30		7	37					H13	17		
	裾野市	44		38	82			5	5	H16	54		
	伊豆市	480	8	371	859			34	34	H15	627	CTI、電話応答装置	H18
	伊豆の国市	103	1	198	302			23	23	H15	135	同報無線、電話応答装置	H15(旧大仁)
	函南市	32	1	74	107	2		9	11	H14	46		
	清水町	2		16	18	2		5	7	H15	7		
	長泉町	2		29	31			3	3	H15	13		
	小山町	47		61	108					H16	71		
小計	879	10	1,045	1,934	26		159	185		1,205			
富士	富士宮市	40		111	151	8		4	12	H15	57	同報無線、電話応答装置	H16
	富士市	24		108	132					H13	45	コミュニティFM送信装置	H17
	芝川町	67	1	164	232					H13	129		
	小計	131	1	383	515	8		4	12		231		
静岡	静岡市	893	5	1,703	2,601	64		96	160	(H9)H19	1,331	CTI	H18
	富士川町	33	1	60	94					H13	39		
	由比町	26	6	80	112					H16	35		
	小計	952	12	1,843	2,807	64		96	160		1,405		
島田	島田市	163	13	389	565					H15・H16	227	インターネット配信	H14
	焼津市	24	1	48	73			13	13	H14	57		
	藤枝市	119	26	318	463	17		80	97	H13	240	CTI	H14
	岡部町	86	1	128	215					H13	85	同報無線	H14
	大井川町												
	川根町	35	13	104	152	12		24	36	H13	152		
	川根本町	42		143	185					H13	184	同報無線	H19
小計	469	54	1,130	1,653	29		117	146		945			
御前崎	御前崎市	12		324	336			19	19	H16	26		
	牧之原市	44	2	320	366	3		15	18	H15・H16	66		
	吉田町			6	6					H16	2		
	小計	56	2	650	708	3		34	37		94		
袋井	磐田市	66		211	277			2	2	H15	44	CTI、メール配信	H19
	掛川市	134	11	881	1,026	37		156	193	H15	149	同報無線、電話応答装置	H15,H16
	袋井市	32		220	252			7	7	H15	45	CTI	H16
	菊川市	44		423	467			28	28	H16	98	CTI、メール配信	H16
	森町	59	5	364	428			3	3	H13	54	同報無線、電話応答装置	H15
小計	335	16	2,099	2,450	37		196	233		390			
浜松	天竜区	292	66	898	1,256	82		247	329	(H9~H15)H18	567	CTI、同報無線	H13~H15
	天竜区以外	148	5	1,183	1,336	8		105	113	H13~H16	278	同報無線、電話応答装置	H15(旧引佐)
	浜松市計	440	71	2,081	2,592	90		352	442		845		
	湖西市	2		151	153					H15	34		
	新居町			30	30			4	4	H16	16		
小計	442	71	2,262	2,775	90		356	446		895			
合計	4,247	183	10,763	15,193	323		1,115	1,438		6,436			

■CTI：予め登録された住民の方々へ自動的に電話連絡するシステム



静岡県の土砂災害情報は、  
<http://sabougis.pref.shizuoka.jp/>  
 でご覧になれます。

に、「土砂災害防止法」に基づく土砂災害警戒区域等の区域指  
 針対策を合わせた、総合的な土砂災害対策を進めています。

## 市町別ハード対策（土砂災害防止施設の整備）の実施状況

（平成20年3月31日 現在）

所管 土木	市町村名	土石流			地すべり			急傾斜地			合 計		
		要対策 渓流数	概 成 渓流数	整備率 (%)	要対策 箇所数	概 成 箇所数	整備率 (%)	要対策 箇所数	概 成 箇所数	整備率 (%)	要対策 箇所数	概 成 箇所数	整備率 (%)
下田	下田市	94	16	17.0				164	25	15.2	258	41	15.9
	東伊豆町	16	8	50.0	6	1	16.7	38	7	18.4	60	16	26.7
	河津町	53	13	24.5	5	2	40.0	44	12	27.3	102	27	26.5
	南伊豆町	119	10	8.4	1	1	100.0	131	35	26.7	251	46	18.3
	松崎町	71	7	9.9	1	1	100.0	77	18	23.4	149	26	17.4
	西伊豆町	64	16	25.0	1			67	18	26.9	132	34	25.8
	小 計	417	70	16.8	14	5	35.7	521	115	22.1	952	190	20.0
熱海	熱海市	91	17	18.7	1			95	12	12.6	187	29	15.5
	伊東市	82	21	25.6	2	1	50.0	110	24	21.8	194	46	23.7
	小 計	173	38	22.0	3	1	33.3	205	36	17.6	381	75	19.7
沼津	沼津市	96	20	20.8				128	67	52.3	224	87	38.8
	三島市	15	2	13.3				39	16	41.0	54	18	33.3
	御殿場市	8	5	62.5				3			11	5	45.5
	裾野市	23	8	34.8				24	6	25.0	47	14	29.8
	伊豆市	328	54	16.5	8	1	12.5	148	31	20.9	484	86	17.8
	伊豆の国市	74	2	2.7	1			82	26	31.7	157	28	17.8
	函南市	14	3	21.4	1			32	6	18.8	47	9	19.1
	清水町	2	1	50.0				11	1	9.1	13	2	15.4
	長泉町	1						18	1	5.6	19	1	5.3
	小山町	35	9	25.7				37	17	45.9	72	26	36.1
小 計	596	104	17.4	10	1	10.0	522	171	32.8	1,128	276	24.5	
富士	富士宮市	34	6	17.6				33	11	33.3	67	17	25.4
	富士市	20	10	50.0				34	16	47.1	54	26	48.1
	芝川町	32	8	25.0	1			48	8	16.7	81	16	19.8
	小 計	86	24	27.9	1			115	35	30.4	202	59	29.2
静岡	静岡市	523	105	20.1	5	3	60.0	632	258	40.8	1,160	366	31.6
	富士川町	28	6	21.4	1	1	100.0	21	12	57.1	50	19	38.0
	由比町	17	8	47.1	6			22	12	54.5	45	20	44.4
	小 計	568	119	21.0	12	4	33.3	675	282	41.8	1,255	405	32.3
島田	島田市	65	13	20.0	13	6	46.2	107	50	46.7	185	69	37.3
	焼津市	13	7	53.8	1	1	100.0	25	19	76.0	39	27	69.2
	藤枝市	36	8	22.2	26	4	15.4	75	38	50.7	137	50	36.5
	岡部町	33	17	51.5	1	2	100.0	42	14	33.3	76	33	43.4
	大井川町												
	川根町	18	3	16.7	13			25	12	48.0	56	15	26.8
	川根本町	23	4	17.4				33	9	27.3	56	13	23.2
小 計	188	52	27.7	54	13	24.1	307	142	46.3	549	207	37.7	
御前崎	御前崎市	1						33	14	42.4	34	14	41.2
	牧之原市	13	11	84.6	2	3	100.0	57	17	29.8	72	31	43.1
	吉田町							3	2	66.7	3	2	66.7
	小 計	14	11	78.6	2	3	150.0	93	33	35.5	109	47	43.1
袋井	磐田市	20	1	5.0				33	3	9.1	53	4	7.5
	掛川市	39			11	5	45.5	102	19	18.6	152	24	15.8
	袋井市	7						30	9	30.0	37	9	24.3
	菊川市	9	2	22.2		1	100.0	84	27	32.1	93	30	32.3
	森町	23	5	21.7	5	2	40.0	26	3	11.5	54	10	18.5
	小 計	98	8	8.2	16	8	50.0	275	61	22.2	389	77	19.8
浜松	天竜区	128	43	33.6	66	19	28.8	306	61	19.9	500	123	24.6
	天竜区以外	43	9	20.9	5	3	60.0	281	61	21.7	329	73	22.2
	浜松市計	171	52	30.4	71	22	31.0	587	122	20.8	829	196	23.6
	湖西市							38	5	13.2	38	5	13.2
	新居町							16	4	25.0	16	4	25.0
小 計	171	52	30.4	71	22	31.0	641	131	20.4	883	205	23.2	
合 計	2,311	478	20.7	183	57	31.1	3,354	1,006	30.0	5,848	1,541	26.4	

## 土砂災害に対する

# 警戒避難体制整備促進の取り組み

### 1 土砂災害警戒区域等の指定

土砂災害から人命を守るため、警戒避難体制の整備が促進されるよう、県では土砂災害警戒区域の指定（土砂災害のおそれがある区域の明示）を行っています。平成19年度は756区域を指定し、累計で1,438区域となっています（P6「あなたのまちの安全度」参照）。区域指定されたときは、市町村地域防災計画で区域ごとに警戒避難体制の整備を進め、ハザードマップの作成・配布をお願いいたします。

また、土砂災害特別警戒区域（建物に損壊が生じ人命に著しい危害が生ずるおそれがある土地の区域）では、災害時要援護者関連施設等の建築を行う場合の開発行為が許可制となり、住宅建築物等の構造規制等が図られます。

なお、区域指定の図書は、砂防室・関係土木事務所・関係市町で縦覧するほか、砂防室ホームページでお知らせしています。

土砂災害警戒区域等の指定と対応状況

（平成20年3月31日現在）

市町名	警戒区域	特別警戒区域	ハザードマップ配布	市町名	警戒区域	特別警戒区域	ハザードマップ配布
下田市	121	81		静岡市	160	107	
南伊豆町	18			焼津市	13		
熱海市	45	44		藤枝市	97	94	37
伊東市	35	30		川根町	36		
沼津市	72	54		御前崎市	19	19	
三島市	30	29		牧之原市	18	17	
裾野市	5			磐田市	2		
伊豆市	34			掛川市	193	174	22
伊豆の国市	23			袋井市	7		
函南町	11	9		菊川市	28	1	
清水町	7	5		森町	3		
長泉町	3			浜松市	442	82	
富士宮市	12	9		新居町	4	1	
				26市町計	1,438	756	59

### 2 全国統一土砂災害防災訓練の実施

「土砂災害に対する防災訓練」を**6月1日（日）に全国一斉で実施**します。この訓練は、台風等により土砂災害が発生した場合に備え、災害に対する警戒避難体制の確認と防災意識の高揚を目的に、県内29市町において実施します（昨年度は本県の10市町において地元地区住民や行政関係者など660人が訓練に参加）。訓練は、土砂災害警戒情報の発表後に訓練対象地区住民が避難所まで実際に避難するなど土砂災害に対する実践的な対処を主体に構成されています。

### 3 土砂災害防止講習会等の実施

静岡県では、県民への土砂災害防止に関する知識の普及のため、土砂災害防止講習会や小中学校への出前講座などを行っています。また、土砂災害防止講習会の受講者の中から土砂災害危険箇所のある地区の受講者を「防災連絡員」として登録し、平常時の監視体制の強化や警戒避難体制の支援を図っています。

**県職員が説明に伺いますので、市町で実施している防災講座等に積極的に御活用ください。**

平成19年度 土砂災害防止講習会 開催実績

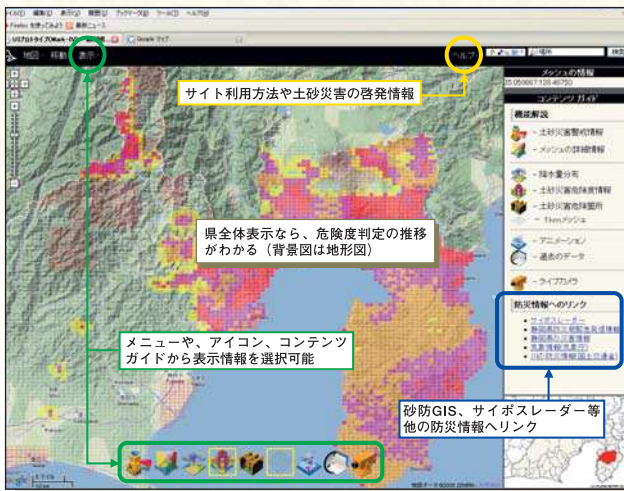
市町	開催日	講習会名	場所	対象者	人数
菊川市	5月10日	菊川市自主防災活動説明会	菊川文化会館アエル	自治会長、防災会長	300人
下田市	5月27日	ミニ防災講座	稲生沢中学校	消防団、自主防災会、住民等	50人
浜松市	5月27日	土砂災害防止講習会	犬居小学校	若身自主防災会	50人
藤枝市	5月31日	地域防災指導員養成講習会	藤枝市役所	各自主防災会、消防団OB等	100人
三島市	6月 5日	自主防災組織事務説明会	三島市社会福祉会館	自主防災組織役員等	170人
川根町	7月27日	土砂災害防止法説明会	川根町民センター	町内会役員	23人
御前崎市	7月30日	総合防災訓練説明会	御前崎市役所	町内会長・防災委員	140人
静岡市	12月 2日	H19地域防災訓練	平野公民館	平野地区住民	70人
8市町					903人

市町独自の土砂災害対策に関する講習会の事例

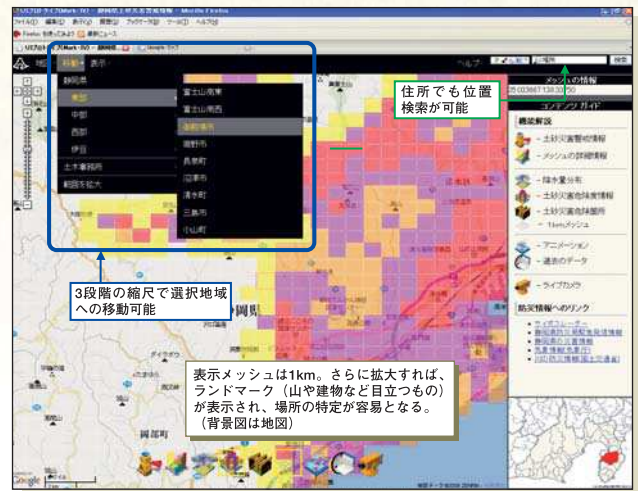
市町	開催日	講習会名	場所	対象者	人数
裾野市	1月29日	「土砂災害から地域を守る」 富士常葉大学環境学部 井野教授	裾野市役所	市職員、建築士会及び裾野市建設業協会の会員	90人

## 4 全て見せます!! 土砂災害警戒情報を補足する詳細情報を一般公開

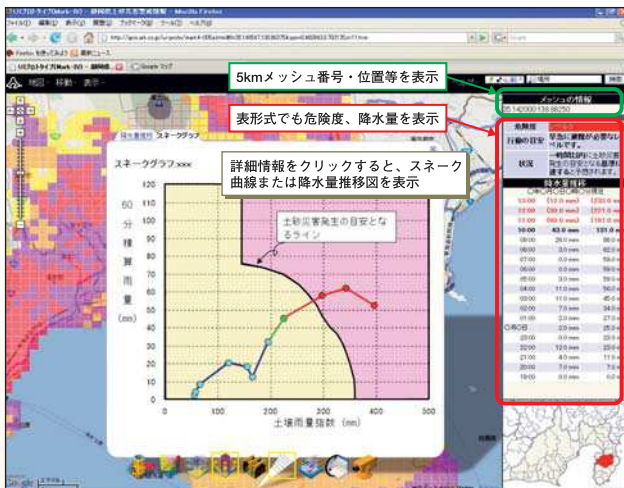
平成19年6月15日から「土砂災害警戒情報」の発表の運用を開始しました。昨年は、台風4号、台風9号などが来襲し、3回32市町33地区に対し、発表しました。しかしながら、発表が原則市町村単位であることなどから、9月に実施した市町村へのアンケートでは、より詳細で即時性のある情報の提供を求める意見が多く寄せられました。このため、県では、「土砂災害警戒情報を補足する詳細情報」として、気象庁から送られる**詳細なデータをわかりやすい形で、この6月から県ホームページへ掲載**することとしました。



表示例1：全県表示



表示例2：市町村表示



表示例3：スネーク曲線の表示



表示例4：発表文の表示

- インターネット上で汎用されている「Googleマップ」を背景図として使用
- 背景図は、地図（等高線表示）、地形図（起伏は陰影表示）、航空写真から選択可能
- 拡大縮小や地図検索の容易さなど、Googleマップの機能を継承
- 警戒情報危険度判定メッシュ図や、降雨状況、土砂災害危険箇所図などの重ね合わせが可能
- 判定メッシュ図は、実況雨量・予測雨量によって判定基準突破予測時間によって色分け
- 好みの表示状況（縮尺、背景図、重ね合せ図など）でブックマークすれば、次回からは同じ表示（例えば、市役所を中心として市域全体の航空写真と、判定メッシュ、危険箇所図を表示）
- いわゆる「トップページ」はありませんので、必要な情報にいきなりアクセス
- アクセス中、データは自動更新
- 各機関でインターネット配信しているライブカメラをまとめ、クリックすれば公開映像が表示される（配信している機関のホームページへの移動も可能）



平成19年度

# 「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」 優秀作品の表彰

平成19年度の土砂災害防止月間活動の一環として、「土砂災害防止に関する絵画、ポスター・作文」を募集したところ、117点の募集がありました。県内における地方審査と国の中央審査の結果、9作品が入選しました。3月26日の県庁での表彰式では、家族の方々が見守る中、入賞された皆さんに静岡県の衛門建設部長から表彰状が手渡されました。入賞されたみなさん、おめでとうございます。

なお、受賞作品は、土砂災害防止の啓発用品や啓発活動などで紹介・活用させていただきます。

## ■栄えある受賞者のみなさん

賞	部門	学校名	学年	氏名
国土交通大臣賞	作文	静岡市立梅ヶ島小学校	1年	杉山 隆雅
	ポスター	浜松市立白脇小学校	4年	鈴木 絢女
国土交通事務次官賞	ポスター	掛川市立西郷小学校	6年	萩田 華歩
国土交通省砂防部長賞	絵画	小山町立須走中学校	2年	黒田 千絵
	ポスター	富士市立須津中学校	3年	西家 菜摘
静岡県知事賞	絵画	静岡市立中島中学校	3年	瀧田 祐介
静岡県建設部長賞	作文	静岡市立安東中学校	2年	白鳥 翔太
全国治水砂防協会 静岡県支部長賞	作文	浜松市立三ヶ日東小学校	6年	藤井 希美
	ポスター	富士宮市立西富士中学校	2年	濱屋 聡美

※学校・学年は応募当時のものです。



## 作文の部

### ●国土交通大臣賞 『「さぼうえんてい」ってなあに』

「らいねんは、やさいがつくれなくなるかなあ。」  
おじいちゃんとおばあちゃんが、かなしそうにいました。  
ぼくのうちは、わさびとおちゃのうかです。おじいちゃんたちは、はたけで、おいしいおやさいをつくってくれます。  
ぼくは、おじいちゃんがつくるしんせんなおやさいが、だいすきです。

「そんなおやさいが、たべれなくなるのは、なぜだろう。」  
ふしぎにおもってきました。すると、「らいねん、おうちのうらに、さぼうえんてをつくるんだよ。こうじのトラックがはいるのに、どうろをひろげるから、うちのはたけが、つぶれてしまうんだよ。」と、おしえてくれました。おばあちゃんは、「こうじのトラックが、はいるようになると、いままでのようにあそべなくなるね。」といました。

「どうして、いやなことばかりなのに、さぼうえんていをつくるのかなあ。」

「さぼうえんていってなあに。」  
ぼくはちょうさをするにしました。  
さぼうえんていっていうのは、あめがいっぱいふったとき、どしゃさいがいがおきないように、川の下にすんでいる人たちが、あんしんして、せいかつができるようにするために、つくるそうです。

「じゃあ、つくらないとどうなるの。」  
ときくと、

「あめで、山がくずれて、いえがどしゃでうまってしまうたり、人のいのちがなくなってしまうんだよ。」

と、おしえてくれました。

### 静岡市立梅ヶ島小学校1年 杉山隆雅さん

ぼくのおうちから、もうすこしのぼると、うめがしまおんせんがあります。おじいちゃんが、おんせんのどしゃさいがいのことを、おしえてくれました。

「しょうわ41ねん9がつ26にちのよる、たいふう26ごうがじょうりくして、うめがしまに、いままでにないくらいの、おおあめがふって、どせきりゅうがおきたんだよ。とても大きなひがいがでて、いのちがなくなった人が20人もいたんだ。おじいちゃんは、そのながされた人たちをみて、たいへんだとおもって、たすけにいったんだよ。」

と、はなしてくれました。  
とつてもかなしいおはなしでした。ぼくは、しにたくありません。

うちもながされたくないです。さぼうえんていをつくれば、ひがいがなくなるなら、うちのはたけがなくなってもいいです。そとでおもいきりあそべなくても、さぼうえんていが、みまもってくれるならいいです。さぼうえんていはぜったいにひつようだとおもいました。

ぼくが大きくなったら、大あめをすいとる、「大そうじき」をつくってみたいです。そして、水のないくの人に、水をきれいにしてわたしてあげたいです。

ぼくは、しぜんがいっぱいの、うめがしまがだいすきです。山をいっぱいけずると、山がおこります。木をきりすぎると、どしゃがくずれやすくなってしまいます。にんげんと山が、ずっとずっとなかよく、くらせたらいいなあとおもいました。

このさくぶんをかいたあと、山にちいさな木を一ぼん、うえてみようとおもいます。

## ポスターの部、絵画の部（国土交通省関係）

### ●国土交通大臣賞



浜松市立白脇小学校 4年  
鈴木絢女さん

### ●国土交通事務次官賞



掛川市立西郷小学校 6年  
萩田華歩さん

### ●国土交通省砂防部長賞



小山町立須走中学校 2年  
黒田千絵さん



富士市立須津中学校 3年  
西家菜摘さん

## 作文の部

### ●静岡県建設部長賞

『土砂災害対策』 静岡市立安東中学校2年 白鳥翔太さん

道路の陥没をニュースで耳にした時、現実にもそのようなことが起こるのかと、とても驚きました。集中豪雨の地すべりによる伊豆の国道136号線の陥没は、修善寺と西伊豆の土肥を結ぶ重要な国道の通行止めのため、ニュースや新聞で大きく取り上げられていました。このような土砂災害は、平成16年の10個の台風上陸による大規模な土石流の発生や、新潟県中越地震を原因とした土砂くずれなど、年々増えてきているように思います。今回の伊豆の災害をきっかけに、なぜ土砂災害が起きるのか、また増えているのか興味を持ち、調べることにしました。

偶然にも父の仕事が、土木の関係の仕事だったので、国道136号線の陥没による被害、内容、周りの影響、今後の対策などを知ることができました。道路の陥没の原因は、7月14日に上陸した台風4号により、伊豆の土肥で雨量が202ミリと記録的豪雨となったことです。7月23日ごろから道路の陥没が始まりました。陥没時に車の通行がなかったことから、死傷者などの被害はなかったものの、土肥と結ぶ重要な道路が通れなくなったため、土肥の住民や観光者には大きな影響がでました。土肥温泉では、国道の代わりとなるう回路を紹介していますが、その道路が曲がりくねっていて時間もかかることから、旅館の宿泊客や海に遊びにくる人が減り、旅館やみやげ物店の売り上げが夏休みなのに伸びないなど経済的な影響がありました。

土砂災害の主な原因は、台風などの大雨により地盤がゆるむことですが、最近、大雨や非常に強い台風が増えているため、大規模な災害が増加しています。特に、新潟県中越地震による土砂くずれで自動車一台巻きこまれた災害は記憶に新しいと思います。あの時は生でテレビで見ましたが、土砂に埋まった車からレスキュー隊が子供を助け出しました。あの映像はとても衝撃的で今でもしっかりと覚えています。後に母親は助からなかったことを知り、土砂災害の恐ろしさを改めて感じました。

また、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加のにより、地球温暖化が進んでいて、今年の夏は各地で40度以上の最高気温を記録するなど猛暑となっています。土砂災害の発生となる台風や集中豪雨の増加も、こうした地球温暖化による海面の温度の上昇が原因と聞いています。そのため、

地球温暖化を止めることが、台風などが減り、土砂災害も少なくなっていくことにつながると思います。今、私たちにできることはエアコンを使いすぎない、外出する時は近い所ならなるべく車を使わない、などをして地球温暖化の進行を止めるよう努力することも大切だと思います。

今回の伊豆の道路陥没は、土砂災害対策の重要性についても、考えさせられました。国道136号線の陥没は今回が初めてではなく、40年前に一度起きています。人命にかかわる陥没がまた起こったということは、最初の陥没の後に、地形や地質などの原因を考え、十分な対策を行っていれば防げたかもしれないと考えたからです。

日本の地形は、山々や海に囲まれているため、他県に移動するときにはどうしてもトンネルや山道、切り立った海岸の道路を通らなければいけない構造になっています。そのため土砂災害の発生で道路が被害を受けると、死傷者が出たり物資の輸送が止まるなど、大きな影響がでます。そのような被害を少なくするためには、被害の発生を事前に予測し、対策を立てておくことが大事だと思います。例えば、道路を作る時に、地形や地質を調べ、その場所でのどのような災害が起きやすいのかを考え、災害に応じた土砂を防ぐフェンスやコンクリートの壁を建てるなどの補強対策をする。また、台風などで大雨が気象予報により予想され、土砂災害の起こる危険性が、高まった場合は雨量情報によりその付近の道路を通行止にし、付近の住民は別な場所に避難をさせることができれば、被害が減らせると思います。

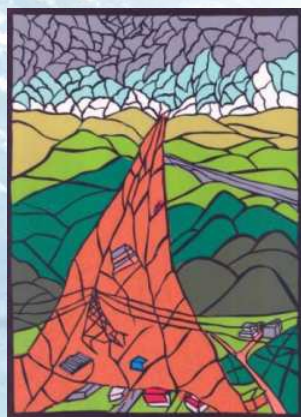
土砂災害の対策でより重要なことは、災害が起きてしまった後の復旧だと思います。今回の伊豆の道路陥没は一時的に仮橋をかけることによって、お盆の前の8月11日に通行止が解除されました。土肥の人々は、お盆休みになんとか間に合って喜んでいて聞いています。

このように土砂災害で道路が通行できなくなったら、それをどれだけ早く復旧できるかが大切なんだと思います。

全国には危険な場所が無数にあると思います。土砂災害をできるだけ未然に防ぐように、過去の災害を参考にして、あらゆる対策を考え、実行していくべきだと思います。

## ポスターの部、絵画の部（静岡県関係）

### ●静岡県知事賞



静岡市立中島中学校 3年  
瀧田祐介さん

### ●全国治水砂防協会静岡県支部長賞



富士宮市立西富士中学校 2年  
瀧聡美さん



杉山隆雅さん



鈴木絢女さん



西家菜摘さん



保護者集合写真

## 作文の部

### ●全国治水砂防協会静岡県支部長賞

『七夕豪雨が教えてくれた土砂災害』 浜松市立三ヶ日東小学校6年 藤井希美さん

山がくずれ、線路に土砂が…。まるで悪魔が舌を出して、あっかんべーをしたような様子を見たのです。「なんだろう。」とテレビに釘付けになったのは海の日でした。私はテレビ映像で新潟県中越沖地震の大きさを知りました。今まで映像を通して見てきた地震や土砂災害を、「遠くで起きた出来事だよ。ここは大丈夫だよ。」と、関心がなかったのです。

そんなことを思っていると、テレビを見ながら家族が、「この辺りでも、昔、地震で大きな土砂災害がおきたり、大雨で土砂災害があったりしたねえ。」と話していることが耳に入りました。私は「私の近くにそんなことがあったんだ。こわいなあ。でも、私の家族は、どんな土砂災害に出会い、どんな思いをしたのか。聞いてみたい。」と思いました。そこで家族の思いを取材してみることにしました。

祖父は、三十年くらい前、七夕豪雨という大雨の時、家のそばにある店が床下しん水をしたので、当時地区の役員をしていたために見回りに行く役目があり、大雨の中を見回りに出かけたそうです。祖父は「そんな店の人と話をし、ついでに近くの海岸よりの少し高い土手のある家も見回っていかんやあ、土手の前を通りすぎたそのすぐ後になあ、通ったすぐ後ろが土砂くずれになり、もう少しで、じいじは土砂の下じきになるところで命拾いしただよ。こわかったよ。」

と話してくれました。また、祖父は、

「おばさんが豊橋の高校に通っていたころ大雨が降っただよ。そうそう七夕豪雨じゃね。今の天浜線の知波田駅と尾奈駅の間で土砂くずれがおき、電車が不通になってなあ。夜だったんで真っ暗だったが、どしゃぶりの大雨ん中を十五キロくらい歩いて、おばさんを迎えに行ったことあ忘れんなあ。」

しみじみと話す祖父の顔のしわが深く動き、災害のこわさがずうんと伝わってきました。

祖母の七夕豪雨も祖父と同じ天浜線が土砂災害で不通になり自分の娘であるおばさんをすごく心配したことを思い出すそうです。また、「土砂は思わぬところからくずれ落ちるから、一歩違えば命を落とすもんね。忘れられない土砂くずれだったよ。どっちににげれば助かるか、いつも気

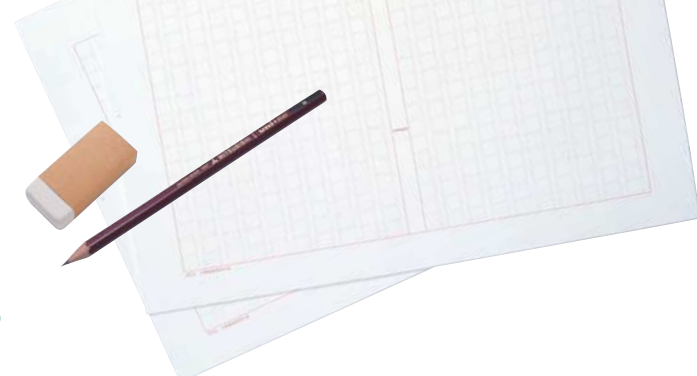
持ちの準備をしておけば命を守れるからね。」と、自分の命を守る大切さも話してくれました。父の七夕豪雨は、大学のサークルで松江の駅にいて、駅の掲示板で「二俣線不通」を知り、家に電話をして土砂くずれがあったことを知ったそうです。母の七夕豪雨は、中学生の時だったそうです。バケツをひっくり返したような大雨で実家が床下しん水し、みるみるうちに泥水が増えていくのを目の前で見たときの恐さは、何と言ってもいかわからないほど恐ろしかったそうです。学校の部屋も背の高さほど泥水につき、土砂が流れてきていて、何もかも泥だらけになってしまっていたそうです。

取材を通して七夕豪雨は、土砂災害のこわさを教えてくれました。大雨に土砂災害の危険性が高いこともよく分かりました。祖母が言うように、いつも自分の命を自分で守る勇気や知恵を日頃から身に付けておくことが一番大切だと気付くこともできました。

私たちの住んでいるこの地でも、東海沖地震が何年も言われています。どんな災害がおきのでしょうか。考えても想像できませんが、すくなくとも土砂災害はおきかと思っています。

では、どうしたら災害防止ができるのでしょうか。今、地球の温暖化が問題にされています。地球は、私たち人間に自然環境を守ることを実行しない限り、土砂災害は防げないと泣いているのでしょうか。

天浜線の土砂くずれで、一歩間違えば命を落とした人も出たことでしょう。いろいろな立場で、先を見通した災害防止が何よりも重要です。私も自分の立場で災害防止について、何が大切で何をすればよいかもう一度考えてみたいです。



## 東海地区全国治水砂防協会支部長・砂防課長会議の開催

1月22日、東海地区全国治水砂防協会支部長・砂防課長会議を掛川市内で開催しました。会議には、亀江国土交通省砂防部長や大久保全国治水砂防協会理事長をはじめ、東海地区の各砂防協会支部長、砂防主管課長が、本県からは原田副支部長（袋井市長）、本橋河川砂防局技監が出席しました。

会議では、亀江砂防部長から、「最近の砂防行政について」と題し、平成19年の土砂災害の状況と対策、今後の方向などについての説明が、大久保理事長から、「土砂災害防止に関するアンケート調査」の結果についての説明がありました。その後、これらについての活発な意見交換と、各支部の活動報告が行われました。会議後、建設が進む富士山静岡空港や国道473号バイパス、菊川市の急傾斜地崩壊対策事業などを視察していただきました。



大久保理事長の挨拶



国道473号バイパスの担当者から説明を受ける皆さん

## 全国治水砂防協会各支部事務局員会議が開催される



西山砂防計画調査官の講演

3月12日、全国治水砂防協会各支部事務局員会議が、砂防会館で開催され、当支部からも参加しました。

はじめに大久保理事長より、各支部の活動へのお礼と、市町村合併に伴う会員数の推移について、挨拶がありました。

続いて、岡本理事より平成19年度の事業報告、宮内事務局長より運営事項についての説明がありました。また、国土交通省砂防部砂防計画課の西山砂防計画調整官から「砂防事業の課題展望」と題し、講演がありました。平成19年度は土砂災害による死者0名だったという報告を受けるなど、地方の協会事務員にとっては有意義な会議となりました。

## 富士山土砂災害対策連絡会が開催される

1月11日、第5回富士山土砂災害対策連絡会（（社）全国治水砂防協会主催）が、山梨県環境科学研究所で開催され、静岡・山梨両県、富士山周辺の市町村が参加しました。

連絡会は、堀内富士吉田市長の挨拶に始まり、山梨県環境科学研究所 荒牧所長による「新しい火山情報と考えられる富士山噴火のシナリオ」、（財）砂防・地すべり技術センター 池谷理事長による「新潟県中越沖地震の危機管理対応と課題」、及び富士砂防事務所 石井所長による「富士山火山砂防計画等について」をテーマとした講演が行われました。



連絡会の様子

## 砂防及び地すべり講習会が開催される

3月13・14日、第48回砂防および地すべり防止講習会が、砂防会館で開催されました。

講習会に先立ち行われた赤木賞授与式では、高橋保京都大学名誉教授をはじめ、功績のあった方々に各賞が授与され、「私の土石流研究」と題して高橋氏により特別講演が行われました。講習会では、亀江砂防部長の「安全・安心を確保する砂防が目指すもの」をはじめ、砂防全般に及ぶ幅広い分野の講演があり、今後の砂防事業の展開に関する話題提供がありました。



大久保理事長の挨拶

## 静岡県砂防ボランティア協会総会及び研修会が開催される



会議の様子

2月18日、静岡県砂防ボランティア協会総会及び研修会が、静岡市内で開催されました。

総会では、大池新会長、武田新副会長のもと、大内地区グリーンベルト作業会（春の県民森づくり大作戦）や、土砂災害に対する全国統一防災訓練、急傾斜地崩壊危険区域の安全点検パトロールなど砂防関係事業に関連した行事への参加など、平成20年度活動計画が決定されました。総会后、本橋河川砂防局技監が、「最近の砂防を取り巻く状況について」と題して研修を行いました。

## 大谷崩300年事業記念碑が除幕

3月14日、大谷崩300年事業記念碑除幕式が、静岡市清水区三保で開催されました。

2007年が、宝永地震を契機として大谷崩が崩れ始めてから300年に当たることから、大谷崩300年事業としてワークショップやシンポジウムを行ってきましたが、この取り組みから、川とともに生きる流域の連携の必要性が確認されたことより、その精神を継承するため、安倍川から流れ出た砂がたどり着く先の三保の地に、大谷崩で採れた石に「居浜想山（浜に居て、山を想う。）」と刻んだ記念碑を建立しました。



除幕の様子

## 日本地すべり学会中部支部シンポジウムが開催される

2月5日、日本地すべり学会中部支部主催のシンポジウムが、長野市で開催されました。

シンポジウムでは、「地すべり災害とその後の対応」をテーマに、日本地すべり学会会長の藤田壽雄氏による基調講演のほか、中部5県による各県の事例紹介が行われました。静岡県からは、平成17年度に藤枝市滝沢地区で発生した地すべり災害について、災害状況や発生直後の対応、災害関連緊急事業の対応等を報告しました。

## 口坂本地すべり検討委員会の開催

2月5日、口坂本地区（静岡市葵区）の地すべり基本計画検討委員会が、静岡市内で開催されました。

委員会では、口坂本地区の地すべり防止対策におけるA地区（北側）の概成判断や、残るB地区（南側）の今後の方針について各委員から助言及び指導をいただきました。

今後も必要に応じて検討委員会を開催し、口坂本地すべり対策の効果的な実施を図っていきます。



検討委員会の様子

## 環富士山火山防災連絡会定期協議会が開催される



小林副市長の挨拶

2月12日、環富士山火山防災連絡会の平成19年度第2回定期協議会が、富士市役所で開催されました。

協議会は、富士市小林副市長の挨拶に始まり、富士山火山噴火における共有情報・伝達方法や来年度の事業計画について協議された後、防災科学技術研究所鶴川火山防災研究部長による「富士山の低周波活動と噴火予知」をテーマとした講演が行なわれました。

なお、富士山の歴史を学び、防災の教訓を後世に伝えようと、御殿場市の「富士山宝永噴火300年記念事業実行委員会」は、富士山宝永噴火からちょうど300年となる12月15日に、桜公園で記念碑の除幕式を行っています。

## しずおか防災科学技術展2008が開催される

3月20日、しずおか防災科学技術展2008（主催：独立行政法人防災科学技術研究所 共催：静岡県、国土交通省富士砂防事務所、環富士山火山防災連絡会等）がグランシップで開催されました。

地震をはじめとした自然災害に対する研究や取り組みに関する展示、巨大地すべり地形マップ（床地図、縮尺1/12,500 全県域）、ミニ講演会、実験教室、科学工作が実施されました。砂防室では「みんなで防ごう土砂災害」をテーマとして、土砂災害危険箇所マップ（砂防GIS）や、平成19年度国土交通大臣賞を受賞したポスターと作文などを展示・説明しました。

あいにくの天気になってしまいましたが、約500名もの方々が来場されました。



砂防室の展示ブース



Drナダレンジャーによる自然科学教室



巨大床地図

### その他の行事

平成20年	1月	17日	地震対策オペレーション2008
		31日	東海地区土砂災害防止法担当者会議
	2月	15日	東海地区砂防担当補佐会議
	3月	5日	富士川流域総合土砂管理全体会議（富士市ロゼシアター）
		12日	特別名勝富士山保存管理連絡協議会（県庁）
		21日	富士山火山砂防計画検討委員会（富士宮市）